

貧しい人のために、保険点数を下げ

貧しい人のために、保険点数を下げる？

Dental/Medical

以前、「貧しい人も含めて国民の皆が十分な医療を受けられるように」という、医療者の要望に対して「だったら医療者が保険の点数を下げてくださいと言ったらどうか」と応えた政治家の先生がおられました。

何故こんなやりとりが生じたかといえば、実は単純なことで、医療者が財源、国民の負担の話から逃げていたからではないでしょうか。



等しく医療や介護が受けられるように、等しく教育、保育が受けられるように。病気になっても、子どもが生まれても、安心して生きることのできる社会にして欲しい。医療、介護や教育というものは国民の共有財であって、共有財とはそれ自体が共有されることを望むものです。

- ・医療に対して国民は何を願い出るのが。
- ・そして医療者は国民に何を示し、また何を願い出るのが。
- ・これまで医療者は無駄な活動ばかりして、自分で自分の首を絞めるようなことはなかったのか。

必要な医療のためにお金がかかるなら、国民に負担を願い出るのも医療者の使命です。その負担は保険料、税金、自己負担からなりますので、保険料や税金を上げないというなら、混合診療に進む以外に方法はありません。

それなのに医療費を増やせ、患者負担は減らせ、増税なんてとんでもないといったところで、この国にはそんなお金の生る木やお花畑なんかどこにも存在しないということが、幸か不幸か政権交代によって証明されてしまいました。

医療にはお金がかかります。そのための財源が必要なのです。それも、いわゆる「無駄」の排除や効率化とは別次元でそれらとは桁違いの財源が。本当はそこを一番に申し出ないといけない。

それが出来ないのなら・・・

「だったら医療者が保険の点数を下げてくださいと言ったらどうか」と・・・
また言われることになるかもしれませんよね。



医療者にとっては、その仕事の対価、国民にとっては医療に支払う費用・・・
医療費という巨額な費用のことを、医療者も国民も、ある意味で面と向かって話し合うことを避けてきました。そして 政治的な圧力ばかりに 頼ってきました。

医療費の決定が国民には見えにくいところで、まるで舞台の上のシンポジウムのような状態で決定されてきたから、医療者は「医療費は低い」と感じるし、国民は「医療費は高い」と感じているのです。

医療者の要求する対価、国民の考える医療費、このことについて声を出して、その財源論、費用負担について 双方が論議することがなければ、いつになっても 井戸の深い底から 不平不満を 誰にも聞こえないのに意見陳述しているのではないのでしょうか。

今こそ、医療者も、国民も、財源論を誰かに転嫁するのではなく、現実を踏まえた、「みんなに聞こえる」、「みんなの声が聞こえる」論議が必要でしょう。



2010/03/30

みんなの歯科ネットワーク

